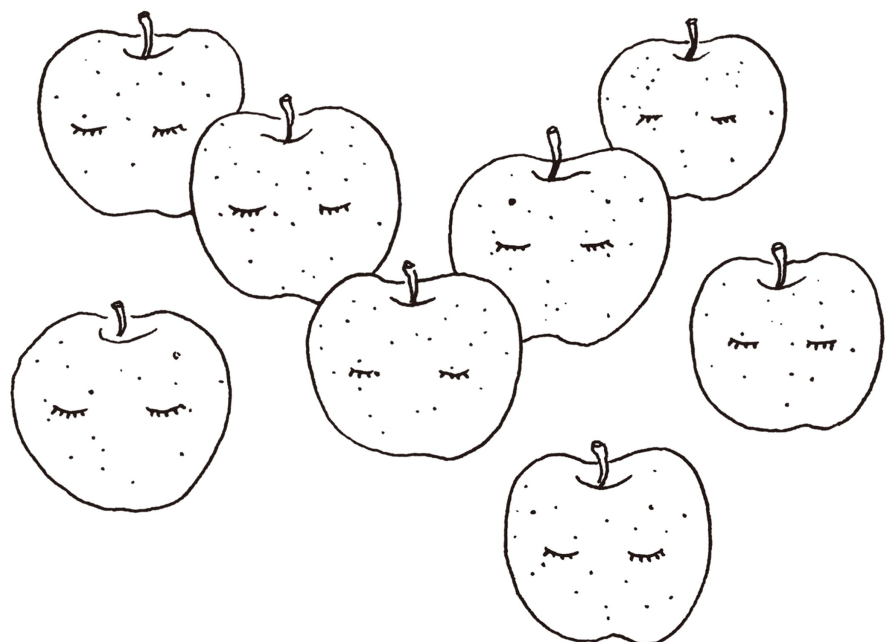
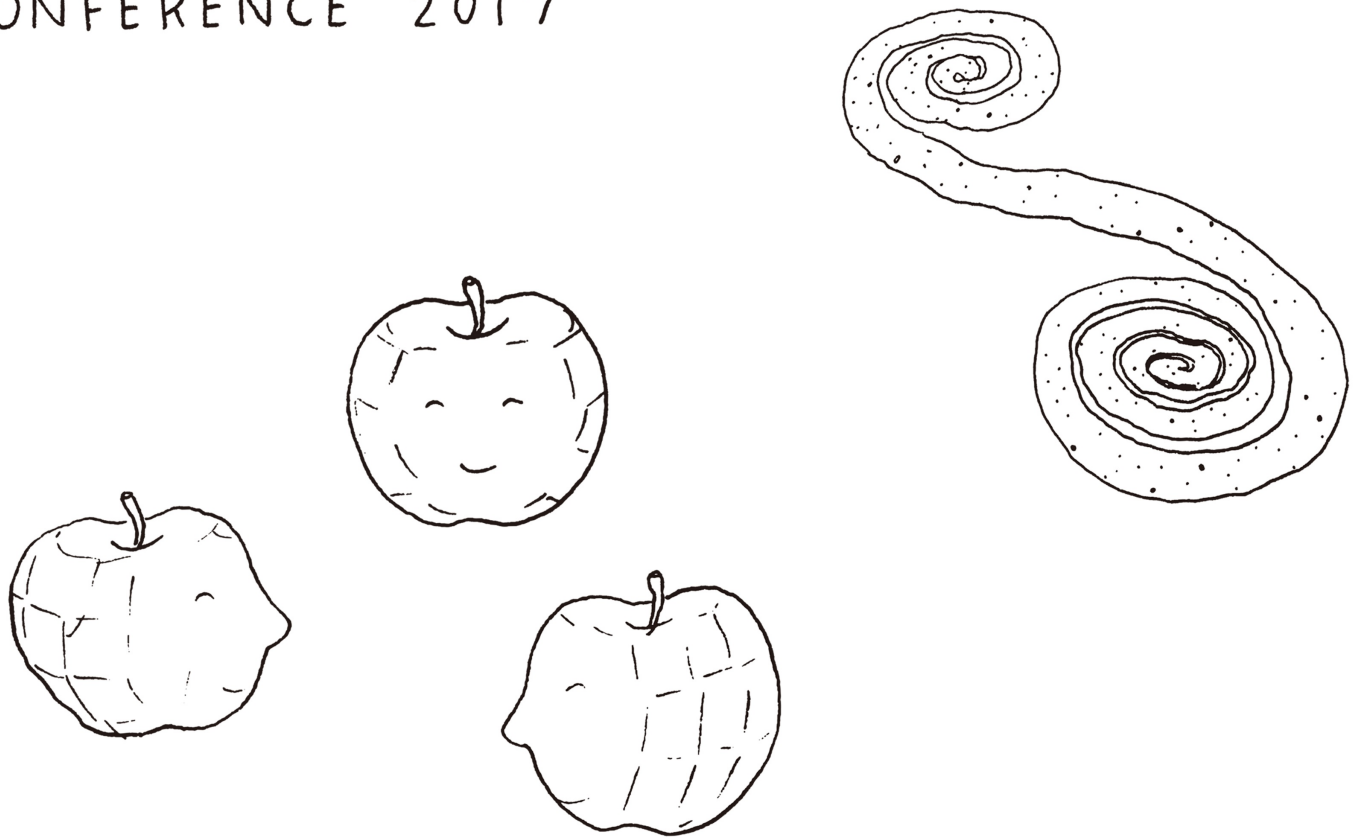


ATAC

Augmentative Talent & Acceptable Community

CONFERENCE 2017



atacLab

目次

ATAC カンファレンスとは？	1
参加についてのご案内	3
セミナー・イベントについてのご案内	4
展示会場案内図 12.2(土)	5
アクセシビリティの基本を学ぶセミナー・相談会 についてのご案内 12.2(土)	6
ATAC 講師による相談会 についてのご案内 12.2(土)	7
プログラム・要旨	
12.1(金) Academic Day	8
12.2(土) Gathering Day	12
12.3(日) Practical Day	20
企業・団体製品展示 12.2(土)	16
ポスター発表 12.2(土)	18
会場案内図	25

Augmentative Talent & Acceptable Community Conference

ATAC カンファレンス 2017 京都

～電子情報支援技術（e-AT）とコミュニケーション支援技術（AAC）に関するカンファレンス～

【日時】 2017 年 12 月 1 日（金）～ 12 月 3 日（日）

12 月 1 日（金）	10:30～16:00（受付開始 10:00）	Academic Day
12 月 2 日（土）	9:20～16:45（受付開始 9:00）	Gathering Day
	17:00～19:00	イブニングセッション
12 月 3 日（日）	9:00～16:00（受付開始 8:30）	Practical Day

【場所】 国立京都国際会館 〒606-0001 京都市左京区宝ヶ池

【主催】 株式会社 atacLab

ATAC カンファレンスとは？

ATAC カンファレンスは「テクノロジー」と「コミュニケーション」をキーワードに、社会の中で困難さを抱える人たちを支援する技術と考え方を多くの人と共有するために 1996 年から毎年開催されています。教育や福祉の現場ですぐに役立つ技術や考え方を専門家が分かりやすくお話しします。

増え続ける選択肢に反し、生きにくさが増す時代に突入しています。加速し変化する社会に合わせるため能力を高める努力が求められますが、人の努力には限界があります。今こそテクノロジーのチカラ、人のチカラ、社会のチカラを組み合わせ生きて行くことを学ぶ必要があります。ATAC カンファレンスはそれを支える会です。

1996 年にスタートして以来、ATAC カンファレンスは支援技術（AT: Assistive Technology）とコミュニケーション技術（AC: Augmentative Communication）をキーワードに、様々な技術を伝達することで障害のある人の生活を変えるべきカンファレンスを実施してきました。その当時、この新しい考えを巻き起こそうと奮起してきた始まりは、人の「学ぶ・働く・暮らす」事に本来興味があったからこそです。それに付随する技術である AT や AAC を伝達し、この 20 年間で様々な技術の知識は広がりました。しかし、技術を前面に出すと多くの人はその知識の習得に満足してしまいます。まだ、その技術を活用して幸せに学び働き暮らす生き方の創造・社会の意識の変革・制度の整備のレベルまで達していません。この次のステップに進むことこそ、これからの私たちに必要なチカラだと考えます。

そして、これらの ATAC で提供してきた技術や思想は、生き辛さを増す現代社会で全ての人が活用出来るはずで。障害のある人だけでなく、これまで支援に関わってきた人、社会で何かしら悩みを抱える人、組織で人を束ねる人までもを含め、全ての人の生き方をトータルに考える時期であるとも言えます。時を同じくして iPS 細胞やロボット等の我々をエンハンスメント（能力増強）する技術の発展が躍進を遂げています。エンハンスメント（能力増強）を我々はもとらえるべきか、またそれを前提として学び・働き・暮らすための学校や会社はどのようにあるべきかを議論する時期に来ています。

そこで、2015 年度から ATAC カンファレンスは以下のキーワードをもって新しい活動を開始しています。

A: Augmentative (拡大)

T: Talent (能力)

A: Acceptable (受容)

C: Community (コミュニティ)

その一方でまだ十分な技術が確立されてなく、生活に大きな困難を抱える人たちの支援を ATAC が失ったわけではありません。今まで通り AT (Assistive Technology) と AAC (Augmentative and Alternative Communication) という柱も重要であり、これまで大切にしてきた課題にも ATAC カンファレンスが引き続き挑戦する姿勢は変わりません。

ATAC カンファレンスは、教室の中、会社の中、施設の中、グループの中でどうしていいのか悩む人たちにとって有用な考え方や技術、また様々な情報を提供できる会です。講演・展示・セミナー・研究や実践発表を通じて多くのことを学んで下さい。

AI（人工知能）やロボットをはじめとして、我々をエンハンスメント（能力増強）する技術の発展が話題になっています。おそらく福祉や特別支援教育にも導入が進むでしょう。今まで当たり前と思っていたことが突然逆転する可能性さえありそうです。この社会の急速な変化の中で、障害当事者や高齢者の生活はどう変わり、特別支援教育や福祉のサービスはどうなっていくのでしょうか。

今年のテーマ「表と裏」

「表は明るいイメージがあり、裏には暗いイメージがつきものですが本当にそうでしょうか。表裏は任意に決まるものであり、実は決して固定的なものではありません。しかし、表が絶対だと思っている人はなかなか裏を見る機会がありません。それが問題を固定化し、変化を止めていることもあります。案外、表と裏をひっくり返せば特別支援教育や福祉の本質が見えてくるかもしれません。

12月2日（土）の Gathering Day では様々なテーマを表と裏から見て議論していきます。そして、並行して企業展示を予定しております。セミナーだけでなく展示エリアからも「表と裏」が体感できるよう楽しい場を作りたいと思います。

これまで同様、学術発表の場である **Academic Day** を **12月1日（金）** に、専門的で実践的な知識を学ぶ **Practical Day** を **12月3日（日）** に合わせて行います。

なお、今年の ATAC カンファレンスは、新しく始まる「^{フィーカ}**FIKAカンファレンス**（夢のある子育てを支援するカンファレンス） <http://atacconf.com/fika/> 」との共同開催です。12月1日（金）は、子育てを取り巻く様々な悩みを ICT とコミュニケーションを組み合わせることで解決に導くことを目的として FIKA カンファレンスが開催されます。障害のあるなしに関わらず人とのコミュニケーションや学び方・働き方・生き方を見つめ直す新しい形のカンファレンスになればと思います。

参加についてのご案内

〈受付について〉

- ・ 12/1（金）、12/3（日）は京都国際会館正面玄関より、12/2（土）は、京都国際会館アネックスホール入口より入場下さい。
- ・ 受付にてお名前をお伝え下さい。名札ストラップ及び領収書、関係資料等をお渡しします。
- ・ この名札ストラップによってATACカンファレンスの参加者と認められますので、開催期間中、会場内では必ず着用して下さい。

〈セミナーへの参加について〉

- ・ 12/2（土）に開催される「相談コーナー」は、事前登録制（当日／先着順）の申し込みとなります。
- ・ 12/2（土）に開催の **イブニングセッション** は参加費 500 円となります（当日支払／事前登録制）。
- ・ 12/1（金）・12/3（日）のプログラムは、事前登録制となっております。事前にご登録いただいたコース以外の受講はできませんので、ご了承下さい。

〈テキストについて〉

- ・ カンファレンス資料（Proceedings）は、1冊 1,000 円（税込）にて販売します。

〈お荷物のお預かりについて〉

- ・ 12/1（金）は、会館常設のクロークをご利用下さい（17：00まで）。
- ・ 12/2（土）、12/3（日）は、ATACでもクロークを設けています（場所は裏面内側ページのマップにてご確認ください）。こちらでお荷物をお預かりしますが、貴重品については、各自での管理をお願いします。貴重品等の紛失・損傷・盗難等は、一切の責任を負いかねますことご了承下さい。
- ・ 12/2（土）のクロークのご利用時間は、**17：00まで**とさせていただきます。イブニングセッション（参加 事前登録制）には、お荷物を持ってご参加下さい。

〈セミナーの撮影・録音について〉

- ・ **セミナーでの撮影・録音は**、他の方の聴講の妨げとなる場合がありますので、原則的に**全面禁止**とさせていただきます。特別な理由で記録が必要な場合は、事務局までご相談下さい。なお、**写真・映像**についての **SNS への掲載・情報発信はご遠慮下さい**。

〈食事について〉

- ・ 12/2（土）、12/3（日）は、会場横でお弁当等の販売を予定しております。12/1（金）の販売はありません。必要な方は、あらかじめ昼食をご持参いただく事をお勧めします。
- ・ 会館内にはレストラン「グリル」（営業時間 10：00～17：00）があります。
- ・ 12/2（土）は、アネックスホール横（ランチコーナー）にて、コーヒー・ドーナツ等の販売も行っておりますので、どうぞご利用下さい。
- ・ セミナー会場内での飲食は可能です。ごみの始末にご協力をお願いいたします。

〈喫煙について〉

- ・ 会場内はホール、通路を含め禁煙です。指定場所以外での喫煙は、ご遠慮下さい。

〈お車でお越しの方へ〉

- ・ 会場の第1駐車場をご利用いただけます（800 円 / 1 回）が、駐車できる台数に制限がございますので、できる限り公共交通機関（地下鉄・バス等）をご利用下さい。

〈休養場所・自習室について〉

- ・ ご気分が悪くなられた方、お子様のおむつ交換などのスペースをご希望の方は、受付までお越し下さい。
- ・ セミナーに参加しないお子様を同伴されている場合は、自習室もご利用いただけます。

〈アンケートご記入のお願い〉

- ・ 当日、受付での関係資料の中にアンケートを同封しますので、ご記入をお願いします。お帰りの際に、受付横のボックスにお入れ下さい。

〈当日の連絡先〉

- ・ カンファレンス中の **ATACカンファレンス事務局** への連絡は **080-1032-1705** まで。

セミナー・イベントについてのご案内

12/1（金）・12/3（日）のセミナーは、すべて事前登録制となっております。ご登録いただいたコース・セッションにご参加ください。

■書籍販売について

12/1（金）から12/3（日）の ATAC の期間中、会場内において、**障害者関連専門書店『スペース 96』**による書籍販売が行われます。どうぞお立ち寄りください。

12/2（土）Room : Annex 2 ペーパードーム内
アクセシビリティの基本を学ぶセミナー・相談会 及びに
ATAC 講師による相談会 についてのご案内

ATAC 講師による相談会を行います。日ごろ悩んでいること、疑問に思っていることなど、ゆっくりと直接相談できる時間です。申し込みは先着順となります。詳細、申し込み方法は **6・7 ページ**を確認ください。

■自習室の利用 について

セミナーに参加しないお子様の参加がある場合は、自由にお使いいただける【自習室】を準備しております。どうぞご利用ください。

Room : 101

利用条件：お子様一人で
過ごせること／小学生以上

■イブニングセッション について 12/2（土） 17:00-19:00

12月2日（土）のカンファレンス終了後に会場内で、お菓子と飲み物を用意したイブニングセッションを開催します。Gathering Day の締めくくりとして、是非、様々な方とのゆっくりとした語らいをお楽しみください。参加費はお1人様 500 円を当日頂戴いたします。定員がありますので事前にお申し込みください。なお、2日に ATAC カンファレンスにご参加いただいている方限定とさせていただきます。＜事前登録制＞

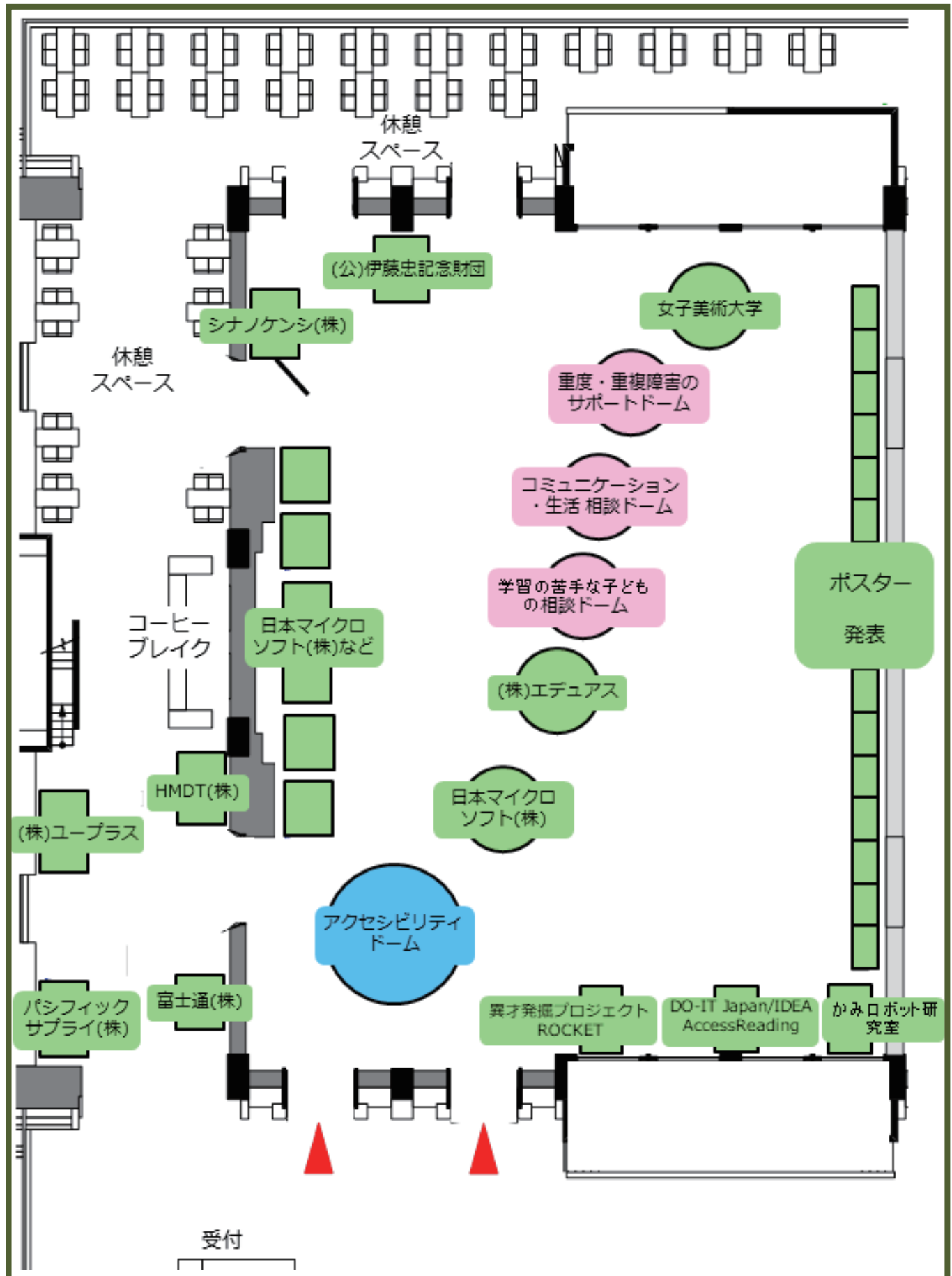
■SENS 有資格者の方へ

Practical Day（12/3（日））のコース1とコース8のセミナーは、特別支援教育士〔S.E.N.S〕、特別支援教育士スーパーバイザー〔S.E.N. S-SV〕資格更新のためのポイントとして認定されます。認定を希望の方は、ID カードをご持参ください。

■託児・サポートサービス について

託児サービスのご利用は、事前にお申し込みを頂いた方のみとさせていただきます。当日のお申し込みは出来ませんのでご了承ください。ご気分が悪くなられた方、お子様のおむつ交換などのスペースをご希望の方は、受付までお越しください。

展示会場案内図 12.2 (土)



展示内容の詳細については、6・7・13 ページ 及びに 16～19 ページ を参照ください。

アクセシビリティの 基本を学ぶセミナー・相談会

日時：12/2 (土)

についてのご案内

場所：Annex2 ペーパードーム内

定員：各 10 名（事前登録制 / 当日受付）

このセミナーでは、日常的に利用されているスマートフォン、タブレット、パソコンなどの ICT 機器を、障害のある人が使うことを可能に、また楽にするアクセシビリティ機能の基本について紹介します。こうした身の回りにおけるテクノロジーの活用に向けての基本情報としてお役立て下さい。なお、可能な方は、各 OS の端末をご持参ください（必須ではありません）。

ATAC 相談会には、幾つかルールがあります。

- ★各講師のセミナー時間・相談時間は、それぞれ 30 分です。
- ★当日受付にて先着順に、各セミナー・相談枠につき 10 名の方のお申し込みをお受けいたします。
- ★相談会の場合、10 名の相談内容はその場で共有となります。公開できる範囲内でご相談ください。
- ★セミナー・相談会のお申込みは基本的に、お一人様、一度にそれぞれ一つまでとさせていただきます。
- ★当日予約をいただき、ご都合が悪くなった場合は、受付までご連絡ください。

区分		名称	時間
■ アクセシビリティドーム			
AC-1	アクセシビリティ セミナー	Windows パソコンのアクセシビリティ 巖淵 守・綱川 貴	10:30-11:00
AS-1	アクセシビリティ 相談会	パソコンのアクセシビリティと利用に関する相談 奥山 俊博・巖淵 守	11:00-11:30
AC-2	アクセシビリティ セミナー	スマホやタブレットのアクセシビリティ ～iOS (iPhone/iPad) 編～ 巖淵 守・平林 ルミ	13:30-14:00
AS-2	アクセシビリティ 相談会	スマホやタブレットのアクセシビリティと 利用に関する相談 平林 ルミ・巖淵 守	14:00-14:30
AC-3	アクセシビリティ セミナー	スマホやタブレットのアクセシビリティ ～Android 編～ 巖淵 守・平林 ルミ	15:00-15:30

▼以下は事前の予約は必要ありません。開始時間前に、指定のドームまでお越し下さい▼

★最新の福祉機器を学ぶセミナー

12:00-12:30 [アクセシビリティドーム]

海外で見つけた最新の福祉機器 巖淵 守（東京大学先端科学技術研究センター）

このセミナーでは、2017 年に開催された欧米における支援機器の展示会やカンファレンスで見聞きした新しい支援技術製品から、先端技術を駆使したもの、斬新なアイデアに富んだものなどを紹介するとともに、最近の動向を探ります。

★重度重複障害のある人の観察法デモ

10:30-11:00 / 12:00-12:30 / 15:00-15:30 [重度重複障害のサポートドーム]

重度重複障害のある人の観察法デモ 武長 龍樹（東京大学先端科学技術研究センター）

重度・重複障害のある人を家庭や学校の日常の中で、観ることから理解する方法をお伝えします。観察に役立つ OAK や TEAK などのツールのデモも行います。

ATAC講師による相談会

日時：12/2 (土)

場所：Annex2 ペーパードーム内

定員：各4名（事前登録制 / 当日受付）

についてのご案内

日ごろ悩んでいること、疑問に思っていることなど、ゆっくりと直接相談できる時間です。個別のご相談をご希望の方は、下記の内容をご確認いただき、当日受付にてお申込みください。具体的なアドバイスをもったり、これまでの活動への自信をつけたり、また新しい視点を得たり、是非有意義な時間を作ってください。皆様のご相談は、以下3つのドームでお受けいたします。

ATAC 相談会には、幾つかルールがあります。

- ★各講師の相談時間は約1時間。
- ★当日受付にて先着順に、各相談枠につき4名の方のご相談をお受けいたします。
- ★4名の相談内容はその場で共有となります。公開できる範囲内でご相談ください。
- ★相談のお申込みは基本的に、お一人様、一度に一つまでとさせていただきます。
- ★当日予約をいただき、ご都合が悪くなった場合は、受付までご連絡ください。

名称	氏名 所属	相談受け内容のキーワード	時間
■ 学習の苦手な子どもの相談ドーム			
KS-1	学習の苦手をおぎなうテクノロジー相談 平林 ルミ 東京大学先端科学技術研究センター 特任助教／言語聴覚士	読み書きの苦手な子ども達を 助けるアプリケーション	10:30-11:30
KS-2	子育て相談 FIKA 吉本 智子・赤松 裕美 東京大学先端科学技術研究センター 学術支援専門職員	子育てに困っている 保護者からの相談	12:00-13:00
KS-3	学習教材・教具・ 宿題の相談 井上 寛子 松江市立意東小学校 教諭	学習につまずく子どもの 教材・教具・宿題	13:30-14:30
KS-4	学習の苦手な子どもの 支援と評価の相談 河野 俊寛 金沢星稜大学人間科学部 教授／ 言語聴覚士	学習の苦手をどのように 評価するか	15:00-16:00
■ コミュニケーション・生活相談ドーム			
CS-1	肢体不自由のある人の コミュニケーション相談 渡辺 崇史 日本福祉大学健康科学部 教授	肢体不自由のある人に便利な 機器やフィッティング	10:30-11:30
CS-2	福祉制度や支援技術の 活用相談 奥山 俊博 東京大学先端科学技術研究センター 研究員	福祉制度 / 支援技術 / 肢体不自由 / 障害のある学生の生活支援	12:00-13:00
CS-3	知的障害・自閉症のある人の コミュニケーション相談 青木 高光 長野県稲荷山養護学校 教諭	自閉症・知的障害のある子どもの シンボルコミュニケーション	13:30-14:30
CS-4	知的障害・自閉症のある人の コミュニケーション相談 坂井 聡 香川大学教育学部 教授	知的障害・自閉症のある子どもの 教育と生活	15:00-16:00
■ 重度重複障害のサポートドーム			
JS-3	重度重複障害のある人の コミュニケーション相談 谷口公彦・佐野将大 香川県立高松養護学校 教諭	重度重複障害の子どもの コミュニケーションと支援	13:30-14:30

12.1 (金)

10:30 - 16:00

受付開始時間 10:00

Academic Day

◇ 実践研究を通じて、日々の取り組みを考える

ROOM	509	510	
区分	ATAC	FIKA / 保護者向け	
タイトル	Academic Day	子どもの学びやコミュニケーションに不安のある親向けセミナー	
対象者		学習に困難を抱える 小・中学生の子どもを持つ保護者	
定員	100 名	30 名	30 名
10:00-	受付開始		
10:30-12:00	Academic Day ～実践研究を通じて、日々の取り組みを考える～ コメンテータ： 巖淵 守・近藤 武夫（東京大学先端科学技術研究センター准教授） 10:30-10:45 オープニング	子育て Salon ～小学生保護者～ 中邑 賢龍・赤松 裕美 子育ての悩みを 1 人で抱えていると自分が一番不幸に感じてきます。そうなるとイライラもします。イライラが家族の衝突を生み、さらに落ち込みます。そんな悩みを抱えているのはあなた 1 人ではありません。FIKA は専門家のアドバイスも交えながら悪循環を良い循環に変えるひと時になるはずです。	子育て Salon ～中学生保護者～ 中邑 賢龍・吉本 智子 子育ての悩みを 1 人で抱えていると自分が一番不幸に感じてきます。そうなるとイライラもします。イライラが家族の衝突を生み、さらに落ち込みます。そんな悩みを抱えているのはあなた 1 人ではありません。FIKA は専門家のアドバイスも交えながら悪循環を良い循環に変えるひと時になるはずです。
12:00-13:00	10:45-11:15 発表 1 湯澤 大樹 11:15-11:45 発表 2 高階 知巳	Break	Break
13:00-14:45	11:45-12:15 発表 3 金森 克浩 12:15-13:15 Break 13:15-13:45 発表 4 河嶋 和子 13:45-14:15 発表 5 富田 朝太郎 14:15-14:30 Break	AI 時代の挑発する子育て 中邑 賢龍（東京大学先端科学技術研究センター 教授） インターネット時代の子どもは知識を簡単に吸収し万能感に満ちています。しかし、そのリアリティのない頭でっかちな子ども達は AI 時代にはロボットに置き換えられていくかもしれません。真の学びを身につけた子どもを育てるにはどうすればいいかについてお話しします。	
14:45-15:00	14:30-15:00 発表 6 関口 あさか	Break	Break
15:00-16:00	15:00-15:30 発表 7 貝原 千馨枝 15:30-16:00 まとめ	コツをつかんで繰り返せ！ 江崎 弘樹（interaction hair design 代表／トップスタイリスト） 英語も話せない中、ハサミ一本でロンドンに渡り、ヴィダルサスーンのロンドン店の責任者まで上り詰めたヘアスタイリストの技の実演を見ながら子育てを考えてみましょう。	

553	書籍販売 スペース 96	102	事務局
101	自習室		

554	555	101
FIKA / 子ども向け	FIKA / 教師向け	FIKA / 子ども向け
自分を分析し、自分に合った学び方を見つけよう	学習に遅れのある子どもと親の理解のための実践的セミナー	働く体験
本人に学習意欲があるが、 学習に困難を感じている小・中学生	学習に困難を抱える 小・中学生の子どもに関わる教師	中学生以上
30 名	60 名	10 名
受付開始		
学びの苦手を調べる 岡 耕平（滋慶医療科学大学院大学 准教授）・ブリキッススタッフ 子ども達はなぜ自分は勉強できないんだろうと分からないまま反復学習を続けています。ポイントが見えればもう少し楽に先に進めるはず。ここでは子ども達に簡単なドリルを解いてもらい、専門家がそれを採点し、子ども達につまづきの原因をフィードバックし、個々に合った勉強の仕方をアドバイスします。 協力：「ハイブリッド・キッズ・アカデミー」 株式会社エデュアス	子どもの理解と評価 ～URAWSS 実施と評価シュミレーション～ 平林 ルミ（東京大学先端科学技術研究センター 特任助教） 教師や専門家向けのセミナーになります。読み書きの速度を評価する URAWSS を体験してもらい、いくつかのケースをどのように解釈し指導のアドバイスをするかを学んでもらいます。	働く体験プログラム 丸山 拓人（東京大学先端科学技術研究センター） 会場設営のお仕事です。展示ブースに使われるペーパードームの製作をします。ドーム型の部屋で様々な展示やセミナーが行われる予定です。働くことの楽しさ・難しさを体験してみましょう。
Break		
君もハイブリッドキッズ ～テクノロジー体験～ 岡 耕平（滋慶医療科学大学院大学 准教授）・平林 ルミ（東京大学先端科学技術研究センター 特任助教）・ブリキッススタッフ 本当に苦手なことは繰り返してもあまり上達しません。その間にも他の子ども達はどんどん先に進み、勉強への意欲は下がっていきます。ここでは苦手を解消するスマホやタブレットの様々なアプリをデモしながら「出来る体験」を子ども達に味わってもらいます。 協力：「ハイブリッド・キッズ・アカデミー」 株式会社エデュアス ハイブリッド・キッズ・アカデミーは、読み書きや学習につまづきのある子どもたちにテクノロジーを使った学び方を提供しています。ハイブリッド・キッズ・アカデミーは、テクノロジーを使った新しい学び方・学ぶ技術を得ることで、失った自信を取り戻し、子どもたち自身に未来を切り開く力をつける日本で唯一の塾です。	子どもの理解と指導 ～宿題やテストから分析する～ 井上 賞子（島根県松江市立意東小学校 教諭）・吉本 智子（東京大学先端科学技術研究センター） 教師や専門家向けのセミナーになります。日々の宿題やテストの間違いを見れば子ども達の学びの特性が見えてきます。子ども達の間違いをどのように解釈し、どのような指導をすればいいかを実例を交えて学んでもらいます。同時に、欧米やアジアの宿題やテストを紹介し学びのあり方を考えてもらいます。	
Break	Break	
コツをつかんで繰り返せ！（ROOM 510）		

12.1 (金) Academic Day 概要・要旨

これまでの ATAC では多くの実践や開発が報告されてきました。また、人とつながり出会う中で、施設、学校、企業など多くの現場でも、優れた実践や研究開発、ユニークな取り組みがなされていることを聞きます。それらの活動を、客観的に整理し広く共有していくチカラをつけませんか？ それらを議論し、日々の取り組みを考えてみませんか？

Academic Day は、既存の古典的な特別支援教育や福祉の研究の枠の中から抜けて、誰もが生きやすい社会を構築するための能力観・社会制度などを学術的に議論する日です。一般の学会発表とは違い、自由な雰囲気の中で発表を聞き、専門家も交え参加者同士で自由にディスカッションし、次の実践・研究の気づきにして頂ければと思います。

コメンテータ：

巖淵 守・近藤 武夫（東京大学先端科学技術研究センター 准教授）

10:30-10:45	オープニング
10:45-11:15 発表 1 【支援技術】	心臓の音を利用したレクリエーションの提案 - メディア表現を用いた支援学校での取り組み - 湯澤 大樹（情報科学芸術大学院大学） 万人に共通する「生」をテーマとし、「生きる」ことに欠かすことのない心臓の鼓動を利用した作品「鼓道 -KODO-」の制作を行い、その実施について述べる。本作は、日常的にインタラクティブ・アート作品の体験が困難である特別支援学校に在籍をする身体障がい児向けに制作したものである。自分自身の生体情報を用いたものを利用することで自身の体に興味を持ちひいては自分が生きていることに目がいくのではと考えている。生きることの喜びを感じてもらえるレクリエーションを提供することを目的とし作成した。
11:15-11:45 発表 2 【支援技術】	VisionCoupler: 静電容量型タッチパネルを自動操作する小型デバイス 高階 知巳（(株)ニコン 研究開発本部 MS 研究課） 様々な製品で使われているタッチパネルは今後も増加すると予想されるが、視覚や手に障害があるユーザには使用が困難な製品も増えていくと危惧される。我々はタッチパネル上の入出力を変換する VisionCoupler を提案し、電氣的に指のタッチを再現する静電容量センサ制御法を用い、それを実現する装置を開発した。そして、プロトタイプにより、指を使わないでタッチパネルを操作するコンセプトの原理検証を行った。
11:45-12:15 発表 3 【支援技術】	肢体不自由児のためのコンピュータ入力評価アプリの開発 金森 克浩（日本福祉大学） 文部科学省が出した「障害のある児童生徒の教材の充実について 報告」では ICT 機器の活用は重要な位置を示しており、有効に活用することが求められている。しかし、肢体不自由のある児童生徒が ICT 機器による学習を行う際、入力に困難さがあるために機器の操作を十分に行えない場合がある。そこで、子どもの操作の様子を確認し、認知発達の状態を考慮した分かりやすいソフトを提示しつつ、その入力の状態を記録するアプリを開発した。
12:15-13:15	Break

13:15-13:45 発表 4 【移動支援】	車いす利用者の国際線航空機搭乗に関する調査研究 河嶋 和子（早稲田大学 人間科学研究科） 車いす利用者にとって、航空機を利用する際の渡航は、ハード・ソフトの両面において、利用に適しているとはいえない現状がある。航空機搭乗までの必要な手続きは、航空会社や空港管理会社のホームページの閲覧だけでは、詳細の理解は困難であり、渡航を諦める者や躊躇する者もいる。そこで本研究では、車いす利用者に質問紙とインタビュー調査を行ない、問題点を精査し、実際に航空機搭乗までの諸課題を検討してその改善提案を行う。
13:45-14:15 発表 5 【特別支援教育】	コミュニケーション能力に特化した障害度分類の活用 富田 朝太郎（医療型障害児入所施設 大阪整肢学院 リハビリテーション部） 多様な障害像を持つ重症心身障害児者の生活を支援するためには、本人の障害特性や個性などの情報を得ることは必要不可欠である。従来、重症心身障害児者の障害度把握について「大島の分類」「横地分類」が活用されてきたが、当院では生活支援において重要な情報であるコミュニケーション能力段階に特化した新たな障害度分類「富田分類」を作成活用している。当院だけでなく他の支援現場でも活用に高い有用性があると考え、実践内容を報告する。
14:15-14:30	Break
14:30-15:00 発表 6 【特別支援教育】	AT や ICT が発展する現代における諦める指導と大切にしたい指導 関口 あさか（埼玉県立熊谷特別支援学校） 公的機関から最重度の認知発達と評価された重度身体障害がある A さんの事例をもとに、①身体障害が重い子どもの公的機関での認知発達検査の課題（操作ができないことや発語がないことでの検査の難しさ）、②このような子どもの教科学習において諦める力について、③伸ばすべき力について、いろんな人と議論したい。
15:00-15:30 発表 7 【特別支援教育】	「テクノロジーによるインクルージョン」と「テクノロジーへのインクルージョン」 - 津田塾大学・インクルーシブ教育支援室での取り組み - 貝原 千馨枝（津田塾大学 インクルーシブ教育支援室） 津田塾大学インクルーシブ教育支援室(IES)では、障害のある学生をサポートし、そのための人材を育成しつつ、学内外向けの研修、講演会やイベントを開催することで、ソーシャル・インクルージョンへの知識と意欲を喚起してきた。本報告では「映像ディスクリプション」「ビーコンとスマホによる誘導」や、IES 全体の活動を素材として、テクノロジーをめぐる支援のあり方について、包括的に論じたい。
15:30-16:00	まとめ

12.2 (土)

9:20 - 16:45

受付開始時間 9:00

Gathering Day

◇ 皆で集まりこれからの社会を議論し、整理する

ROOM	Annex 1	Annex 2
区分	ATAC	展示
9:00-	受付開始	
9:20-9:30	【オープニング】 障害という仮面の表と裏 中邑 賢龍	
9:30-10:30	できなくても動く 江崎 弘樹（interaction hair design 代表／トップスタイリスト） 協力：「コミュニケーションエイド（VOCA、スイッチ等）」 パシフィックサブライ株式会社	企業機器展示 ポスター発表
10:30-11:00	Break	
11:00-12:00	ロボットは人を支援できるのか？ 高橋 智隆（株式会社ロボ・ガレージ 代表取締役社長／ロボットクリエイター） 協力：「特別な支援を必要とする子どもたちの学びを支援する ICT 利活用」 富士通株式会社	
12:00-12:30	Break	
12:30-13:30	未来の教育・福祉を、ビジネスの観点から考える 西山 浩平（株式会社 CUUSOO SYSTEM 代表取締役社長／実業家） 協力：「ハイブリッド・キッズ・アカデミー」 株式会社エデュアス	
13:30-14:00	Break	
14:00-15:00	組織のリーダー論 ～理想の上司とは？～ 岩田 真一（未来スケープ 代表／ベンチャーキャピタル ATOMICO 日本代表／投資家） 協力：「テクノロジーいろいろ、テレワークいろいろ。団体もいろいろ」 障害のある方の全国テレワーク推進ネットワーク	
15:00-15:30	Break	
15:30-16:30	傾いた見方から生まれる可能性 鈴木 康広（武蔵野美術大学空間演出デザイン学科 准教授／アーティスト）	
16:30-16:45	【まとめ】 表と裏 中邑 賢龍	
16:45-17:00	Break	
17:00-19:00	イブニングセッション <事前登録制> カンファレンス終了後に会場内で、お菓子と飲み物を用意したイブニングセッションを開催します。Gathering Day の締めくくりとして、是非、様々な方とのゆっくりとした語らいをお楽しみください。参加費はお 1 人様 500 円を当日頂戴いたします。定員がありますので事前にお申し込みください。なお、2 日に ATAC カンファレンスにご参加いただいている方限定とさせていただきます。	

Annex 2

アクセシビリティドーム	学習の苦手な子どもの相談ドーム	コミュニケーション・生活相談ドーム	重度重複障害のサポートドーム
-------------	-----------------	-------------------	----------------

受付開始

アクセシビリティの 基本を学ぶセミナー・相談会		ATAC講師による相談会		詳細は、6・7ページを 参照下さい。	
事前登録制		事前登録制		事前登録制	
10:30-11:00 AC-1 Windows パソコンのアクセシビリティ 巖淵 守・綱川 貴		10:30-11:30 KS-1 学習の苦手なお子なう テクノロジー相談 平林 ルミ		10:30-11:30 CS-1 肢体不自由のある人のコミュニ ケーション相談 渡辺 崇史（日本福祉大学健康科学部 教授）	
11:00-11:30 AS-1 パソコンのアクセシビリティと 利用に関する相談 奥山 俊博・巖淵 守				10:30-11:00 重度重複障害のある人の 観察法デモ 武長 龍樹	
		事前登録制		事前登録制	
12:00-12:30 海外で見つけた最新の福祉機器 巖淵 守		12:00-13:00 KS-2 子育て相談 FIKA 吉本 智子・赤松 裕美		12:00-13:00 CS-2 福祉制度や支援技術の活用相談 奥山 俊博（東京大学先端科学技術研 究センター 研究員）	
				12:00-12:30 重度重複障害のある人の 観察法デモ 武長 龍樹	
事前登録制		事前登録制		事前登録制	
13:30-14:00 AC-2 スマホやタブレットのアクセシビリティ ～iOS (iPhone/iPad) 編～ 巖淵・平林		13:30-14:30 KS-3 学習教材・教具・宿題の相談 井上 貴子（松江市立意東小学校 教諭）		13:30-14:30 CS-3 知的障害・自閉症のある人のコミ ュニケーション相談度や支援技術 の活用相談 青木 高光（長野県稲荷山養護学校 教諭）	
14:00-14:30 AS-2 スマホやタブレットのアクセシビリティと 利用に関する相談 平林 ルミ・巖淵 守				13:30-14:30 JS-3 重度重複障害のある人の コミュニケーション相談 谷口 公彦・佐野 将大 （香川県立高松養護学校 教諭）	
事前登録制		事前登録制		事前登録制	
15:00-15:30 AC-3 スマホやタブレットのアクセシビリティ ～Android 編～ 巖淵 守・平林 ルミ		15:00-16:00 KS-4 学習の苦手な子どもの支援と 評価の相談 河野 俊寛（金沢星稜大学人間科学部 教授／言語聴覚士）		15:00-16:00 CS-4 知的障害・自閉症のある人の コミュニケーション相談 坂井 聡（香川大学教育学部 教授）	
				15:00-15:30 重度重複障害のある人の 観察法デモ 武長 龍樹	

イブニングセッション

12.2 (土) Gathering Day 概要・要旨

Gathering Day は、立場や分野を超えて様々な人が集い、考え、語り合う日です。

今年の ATAC のテーマは、「表と裏」。様々なテーマを表と裏から見て議論していきます。同時時間帯には、機器展示やデモ、実践発表、個別相談を行います。目の前に展示される技術やサービスを知るだけでなく、それがどういった意味をもち実践へとつながるのか、各自の現場にリアルに役立つものとなるでしょう。Gathering Day の最後はイブニングセッションを予定しております。一日を振り返り、様々な人とゆったり語り合える時間になればと思います。

9:20-9:30	障害という仮面の表と裏 中邑 賢龍（東京大学先端科学技術研究センター 教授） 人と違って生きることによって不安を感じる人が大半だと思います。でも人と違うから楽しいこと、実現できることも沢山あります。今日は人と違うことの意味に気づく 1 日になるはずです。 オープニング
9:30-16:00	企業・団体製品展示 ポスター発表
9:30-10:30	できなくても動く 江崎 弘樹（interaction hair design 代表／トップスタイリスト） ヴィダルサスーンのロンドン店の元責任者である江崎氏はヴィダルサスーンの記事を見て英語の勉強よりもまず先にハサミ 1 本で渡英しその地位まで上り詰めた人である。江崎氏の生き様から技術を持って生きる大切さと学びのあり方を考えていただければと思います。 協力：「コミュニケーションエイド（VOCA、スイッチ等）」 パシフィックサプライ株式会社 https://www.p-supply.co.jp/ 発声の難しい方にとって、コミュニケーションツールとして、VOCA は、活動への参加や様々な経験を体験するために有効な手段です。各種のスイッチは、操作者の補助器具として、意思伝達や家電の操作、子どもの遊び等、多様な使い方があります。活用例と共にそれぞれの機器を展示します。
10:30-16:00	ATAC 講師による相談会 【定員制 / 定員各 4 名 / 当日朝 9 時から現地受付にて受付開始 先着順】 【学習の苦手な子どもの相談ドーム】【コミュニケーション・生活相談ドーム】【重度重複障害のサポートドーム】 において、ATAC 講師による相談会を行います。日ごろ悩んでいること、疑問に思っていることなど、ゆっくりと直接相談できる時間です。 アクセシビリティの基本を学ぶセミナー・相談会 【定員制 / 定員各 10 名 / 当日朝 9 時から現地受付にて受付開始 先着順】 【アクセシビリティドーム】において、日常的に利用されているスマートフォン、タブレット、パソコンなどの ICT 機器を、障害のある人が使うことを可能に、また楽にするアクセシビリティ機能の基本について紹介します。こうした身の回りにおけるテクノロジーの活用に向けての基本情報としてお役立て下さい。なお、可能な方は、各 OS の端末をご持参下さい（必須ではありません）。 詳細は、6・7 ページ を参照下さい。

11:00- 12:00	ロボットは人を支援できるのか？ 高橋 智隆（株式会社ロボ・ガレージ 代表取締役社長／ロボットクリエイター） 小型ヒューマノイドロボット開発の第一人者であり高橋氏はロボットの未来をどのように考えているのでしょうか？ 我々の側に寄り添う小型ロボットを我々は受け入れることが出来るのでしょうか？ 社会はその能力を取り込んだ人を許容するのでしょうか？ 協力：「特別な支援を必要とする子どもたちの学びを支援する ICT 利活用」 富士通株式会社 www.fujitsu.com/jp/ 特別な支援を必要とする児童生徒の学習や学校生活をサポートする、富士通のタブレット端末「FUJITSU Tablet ARROWS Tab」やコミュニケーション支援向けソフトウェア「きもち日記」についてご紹介します。
12:30- 13:30	未来の教育・福祉を、ビジネスの観点から考える 西山 浩平（株式会社 CUUSOO SYSTEM 代表取締役社長／実業家） クラウド・ファンディングのアイデアを提唱した西山氏は学生時代から起業し、ビジネス界で活躍してきました。AI、ロボット、ビットコイン、フンテック、シェアリングエコノミーなどのキーワードの中で未来を志向した教育や福祉はどうあるべきかを語ってもらいます。 協力：「ハイブリッド・キッズ・アカデミー」 株式会社エデュアス https://www.eduas.co.jp/ ハイブリッド・キッズ・アカデミーは、読み書きや学習につまずきのある子どもたちにテクノロジーを使った学び方を提供しています。ハイブリッド・キッズ・アカデミーは、テクノロジーを使った新しい学び方・学ぶ技術を得ることで、失った自信を取り戻し、子どもたち自身に未来を切り開く力をつける日本で唯一の塾です。
14:00- 15:00	組織のリーダー論 ～理想の上司とは？～ 岩田 真一（未来スケープ 代表／ベンチャーキャピタル ATOMICO 日本代表／投資家） 日本の若者の起業意識は海外の若者に比べて低いと言われます。スカイプ日本法人の社長を長く勤め、今はこれからの若者を支援する「未来スケープ」プロジェクトの代表を務めるベンチャーキャピタリストの岩田氏にこれからの組織とリーダーはどうなっていくのかを語ってもらいます。 協力：「テクノロジーいろいろ、テレワークいろいろ。団体もいろいろ」 障害のある方の全国テレワーク推進ネットワーク https://www.facebook.com/zensyotelenet/ 通勤が難しい方のテレワークが特別なものではなくってきた昨今。障害や疾病で外出が困難な方々にとって、環境が整った自宅で ICT を駆使して働けることは、長年の労働阻害要因から解放される頼もしい手法です。とはいえ、課題は通勤だけではなく、支援機器の選択や働くための技術習得など様々で、「フリーランス」を選ぶ人には、自分仕様の仕事受注も大きなポイントでしょう。そうした課題の検討のため、このたび、障害のある方のテレワーク支援を長年行ってきた団体が集結し、全国的なネットワーク組織を発足しました。メンバーは、北海道、関東、中部、中四国と広域で、組織の形も、非営利、企業、第3セクターなど多様であるのが特徴です。情報共有や発信、業務の共同受注など、柱の解決策はやはり「テクノロジー」と「ネットワーク」にあるはず。さあ、試行錯誤のスタートです。
15:30- 16:30	傾いた見方から生まれる可能性 鈴木 康広（武蔵野美術大学空間演出デザイン学科 准教授／アーティスト） 「ファスナーの船」など日常にあるものを見立てて作品を作り上げていく鈴木氏は日本のインスタレーション・アートをリードする1人。彼の作品を見ながら皆さんも日常を様々なものに見立てて遊んで見ませんか？ 発想が柔軟になると日々の生活も穏やかに豊かになり、家庭や社会での小さないさかいが消えていくような気がします。
16:30- 16:45	表と裏 中邑 賢龍（東京大学先端科学技術研究センター 教授） まとめ
17:00- 19:00	イブニングセッション <事前登録制> 12月2日（土）のカンファレンス終了後に会場内で、簡単な軽食と飲み物を用意したイブニングセッションを開催します。Gathering Day の締めくくりとして、自由な時間を過ごしていただけるように企画しております。是非、様々な方とのゆっくりとした語りをお楽しみください。参加費はお1人様500円を当日頂戴いたします。定員がありますので事前にお申し込みください。なお、2日に ATAC カンファレンスにご参加いただいている方限定とさせていただきます。

企業・団体製品展示

Room : Annex 2

展示時間 : 12/10 (土) 9:30 - 16:00

展示時間中はご自由にご覧ください。

同会場内で、ポスター発表（一般発表）も行われています。

企業・団体名（50 音順）

公益財団法人 伊藤忠記念財団 <http://www.itc-zaidan.or.jp/>

主な展示品・サービス：わいわい文庫（マルチメディア DAISY 図書）【児童書】

伊藤忠記念財団は、児童書を電子化（マルチメディア DAISY 規格）し、「わいわい文庫」と名づけ、全国の学校、公共図書館、医療機関などの団体へ無償で提供しています。様々な障害が原因で、通常の本では読書が困難な子どもたちへ、新しい読書スタイルの提案として実施しています。マルチメディア DAISY 図書のパソコンやタブレットでの実演とともに、財団が製作しました 348 作品の児童書の書影ポスターなどを展示します。

異才発掘プロジェクト ROCKET <https://rocket.tokyo/>

ROCKET (Room of Children with Kokorozashi and Extraordinary Talents) は、突出した能力はあるものの現状の教育環境に馴染めず、不登校傾向にある小・中学校生を選抜し、継続的な学習保障及び生活のサポートを提供するプログラムです。

HMDT 株式会社 <http://hmdt.jp/products/droptalk/>

主な展示品・サービス：AAC アプリケーション「DropTalk (ドロップトーク)」の展示紹介

DropTalk (ドロップトーク) は、視覚シンボルライブラリ「Drops」を搭載した VOCA アプリケーションです。2009 年からの開発開始以来、1 万人近いユーザーにご愛顧いただいています。この展示では、既存の iPhone 版/iPad 版の新機能としてスケッチ機能や、手軽にシンボルを作成できるインスタントシンボル、そして全ユーザーでキャンパスを共有できるキャンパスストアの開設、などをご紹介します。また、新規に移植した Windows 版の展示も行います。

株式会社 エデュアス <http://www.eduas.co.jp/index.php>

主な展示品・サービス：魔法のプロジェクト

魔法のプロジェクトは、携帯情報端末を教育現場でご活用いただき、その有効性を検証し、より具体的な活用事例を発表していくことで、障がいを持つ子どもの学習や社会参加の機会を増やすことを目指しています。優れた事例を発表された実践校より選定された魔法のティーチャーと、プロジェクトや活用についてお話いただけます。

かみロボット研究室 <http://kamirobotoken.com/>

主な展示品・サービス：紙でロボットハンドを作ろう！

誰もが慣れ親しんでいる優しい素材「ダンボール」を使った『ダンテ』を作って遊んで、ロボットへの関心を高めたり、人のカラダの仕組みを学びます。 時間：約 45 分、費用：無料、必要物：特になし、開催時間回数：西山浩平氏公演（12:30-13:30）後 1 回 5 人

シナノケンシ 株式会社 <http://www.skcyj.co.jp/>

主な展示品・サービス：PLEXTALKProducer（DAISY 製作ソフトウェア）、イーリーダー（DAISY 再生アプリ）

読むことに困難のある子どもへの支援として、ハイライトと音声の同期した DAISY（デイジー）が活用されています。DAISY 再生アプリ「イーリーダー」で既に提供されている DAISY 教科書を読むにとどまらず、「PLEXTALKProducer」で様々な DAISY の教材を製作することで、読むことに困難のある子どもの実態に応じた合理的配慮に基づく教材の提供を実現します。

女子美術大学 パステルハート・プロジェクト <http://www.ph-project.org/>

主な展示品・サービス：iPad アプリの紹介。ペーパードームを活用したリラクゼーションスペースの提案。

～知的障害児童生徒のために。そして誰でもが癒される空間として～ 女子美術大学パステルハートプロジェクトが開発した iPad アプリのご紹介と、今回、新たな取り組みとして、知的障害、発達障害の児童生徒向けに、「触覚・音楽・香り・光・映像生体センサー・AI 活用によるヒーリング&リラクゼーション空間の演出」を女子美学生とともに制作しています。学生のアイデアを PAPER-DOME にてご体験頂きます。

有限会社 スペース 96 <https://www.space96.com/>

障害者関係専門書店

DO-IT Japan <https://doit-japan.org/2017/>

障害や病気のある小中高生・大学生の高等教育への進学とその後の就労への移行支援を通じ、将来の社会のリーダーとなる人材を育成するため、「テクノロジーの活用」を中心的なテーマに据え、「セルフ・アドボカシー」、「障害の理解」、「自立と自己決定」などのテーマに関わる活動をしています。

IDEA <http://ideap.tokyo/>

障害のある方の多様な働き方の創出をめざす新しい取り組みを始めています。

AccessReading <https://accessreading.org/>

障害により印刷物を読むことが難しい人々のためのオンライン図書館「AccessReading（アクセス・リーディング）」のご紹介。

日本マイクロソフト 株式会社 <https://www.microsoft.com/ja-jp/>

主な展示品・サービス：マイクラ体験ドーム

教育版マインクラフト「Minecraft: Education Edition」を体験しよう！

ただのゲームと思っていませんか？

是非、教育版マインクラフトを触って、
プログラミングの第一歩を感じてみてください！



パシフィックサプライ 株式会社 <https://www.p-supply.co.jp/>

主な展示品・サービス：コミュニケーションエイド（VOCA、スイッチ等）

発声の難しい方にとって、コミュニケーションツールとして、VOCAは、活動への参加や様々な経験を体験するために有効な手段です。各種のスイッチは、操作者の補助器具として、意思伝達や家電の操作、子どもの遊び等、多様な使い方があります。活用例と共にそれぞれの機器を展示します。

富士通 株式会社

主な展示品・サービス：FUJITSU 文教ソリューション K-12 学習情報活用 知恵たま FUJITSU 文教ソリューション K-12 コミュニケーション支援 きもち日記 V1 学びの場で安心して使えるスクールタブレット 富士通の ARROWS Tab

21世紀型スキルの育成に必要な、子どもたち同士が学び合い教えあう授業や個々に合わせた学習環境をサポートするソリューションをご提案します。 学びの場で安心して使えるスクールタブレット「ARROWS Tab」、子どもたちの教え合い学び合いを支援する「K-12 学習情報活用 知恵たま」、発達・知的障害などがある子どもたちが日記形式で気持ちや経験を自分自身で表出・文章表現を支援する「K-12 コミュニケーション支援 きもち日記」をご紹介します。

タブレットを活用した新しい学習環境 - Fujitsu Japan

<http://www.fujitsu.com/jp/solutions/industry/education/school/learning/>

学びの場で安心して使えるスクールタブレット：School Tablet：富士通

<http://www.fmwORLD.net/biz/schooltablet/product/pro01.html>

株式会社 ユープラス <http://www.u-plus.co.jp/>

主な展示品・サービス：トーキングエイド for iPad ぼんぼんわーど

コミュニケーションを支援する「トーキングエイド for iPad」シリーズのテキスト入力版、シンボル入力版、タイマーを体験頂けます。又、発達障害者用認知訓練アプリ「ぼんぼんわーど」の「金魚すくいゲーム」「おしごとなあに」も展示しますので、ぜひお立ち寄りください。

Windows 企業ブース

Windows の支援技術製品・サービスの開発企業・団体・研究機関が集結し、新しい技術・製品・サービス等をお伝えします。Windows で可能な支援技術製品・サービスを最大限にお伝えできるブースなので、是非デモや実機を見に来てください。また、様々な分野の支援技術担当がおりますので、是非ご相談しに来てください！

日本マイクロソフト株式会社 / 株式会社アクセスインターナショナル / イースト株式会社 / NVDA 日本語チーム /

株式会社クレアクト / 株式会社シートカルク / シナノケンシ株式会社 / 島根大学総合理工学研究科ヒューマンインターフェース研究室 / テクノツール株式会社 / 株式会社日立ケーイーシステムズ / 株式会社ユープラス

ATAC 講師によるツールとテクノロジーのデモンストレーション

【アクセシビリティドーム】において、アクセシビリティの基本を学ぶセミナー・相談会を、[学習の苦手な子どもの相談ドーム] [コミュニケーション・生活相談ドーム] [重度重複障害のサポートドーム]において、ATAC 講師による相談会を行います。

詳細は、6・7 ページ を参照下さい。当日、予約を受付いたします（定員制）。

Room : Annex 2

展示時間 : 12/2 (土) 9:30 - 16:00

掲示は上記の時間中行われていますが、責任発表時間には、発表者がブースにてご説明いたします。
発表責任時間については、それぞれのブースにてご確認ください。

ポスター発表者名

肢体不自由のある子どもたちのための入力システムの開発 (2) - プラスチックボールの活用 -

杉浦 徹 (独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)

いわゆる肢体不自由のある児童生徒への AAC を活用した支援は数多く報告されるようになった。本発表は、100 均のプラスチックボールを活用して試作した操作スイッチを紹介することを目的としている。プラスチックボールの加工が容易であり、使用者の実態に応じたスイッチの数、位置、角度のカスタマイズでき、対象児の手の動きにフレキシブル対応できる設定を可能であると考えられる。発表ではフロアの参加者にも実際に操作する体験してもらうことを通じて、支援機器に関する情報交換をしたいと考えている。

特別支援学校教員が出前授業で製作したスイッチ等と実践例の紹介

船木 英岳 (舞鶴工業高等専門学校)

筆者らは、「特別支援学校教員に対してモノづくり力の向上を図る出前授業を実施する」ことで、教員のニーズを各自で解決する力を養成することを試みている。出前授業を実施するに当たり、特別支援学校教員から現場のニーズを聞いてみると、スイッチ作りの要望が多かった。そのニーズに基づき製作したスイッチと特別支援学校における実践例をポスター発表にて紹介するとともに、出前授業の教材や資料を展示する。

卒業後の自立まで見据えたキャリア発達を促す ICT ツール

- 作業学習におけるタブレット PC を用いた支援アプリの開発と授業実践による効用の検証 -

伊藤 史 (岐阜県立郡上特別支援学校)

ICT ツールとキャリア教育という視点からキャリア発達を促すツールとして、支援アプリを紹介する。作業学習で在庫管理するアプリは、作業製品の出来高数がリアルタイムでわかり、それが生徒の製作意欲が高まる要因になっている。また、喫茶の様子を動画で客観的に振り返るツールとして、VR や超短焦点プロジェクターを活用することで、主体的な気づきにつながり、自己を振り返り、変えていく力を培うことについて検証した。

特別支援学校における「デジタル連絡帳アプリ」を利活用した教育支援連携実践モデルの提案

中川 宣子 (京都教育大学附属特別支援学校)

特別支援教育における児童生徒の自立、社会参加のためには、家庭・学校間の連携、協力は不可欠であり、そのためには児童生徒の情報を互いに伝達し合い正確な情報を共有して、教育支援連携活動を行うことが重要である。そこで筆者らは「デジタル連絡帳アプリ」を研究開発し、家庭・学校の教育支援連携システムの構築を提案、実践を行ってきた。本発表では「デジタル連絡帳アプリ」を利活用した教育支援連携の効果を検証し、特別支援教育における教育支援連携実践モデルについて提案する。

肢体不自由児のためのコンピュータ入力評価アプリの開発 金森 克浩 (日本福祉大学)

文部科学省が出した「障害のある児童生徒の教材の充実について 報告」では ICT 機器の活用は重要な位置を示しており、有効に活用することが求められている。しかし、肢体不自由のある児童生徒が ICT 機器による学習を行う際、入力に困難さがあるために機器の操作を十分に行えない場合がある。そこで、子どもの操作の様子を確認し、認知発達の状態を考慮した分かりやすいソフトを提示しつつ、その入力の状態を記録するアプリを開発した。

汎用コミュニケーション支援 Web システム VCAN を用いた言語・コミュニケーション支援 1 ～システムの概要と支援の現状～ 杉山 陽菜子 (新潟大学 工学部福祉人間工学科)

われわれは、言語・コミュニケーションに問題をもつ子どもの支援を目的として、1 台で柔軟に対応できる汎用コミュニケーション支援 Web システム VCAN を開発してきた。Web 上で誰でもエイド VCAN を製作可能であるが、その内容は個々で多種多様なため、設計しにくいなどの問題がある。その製作を効率化するための基礎研究として、7 名の VCAN において、利用者属性や使用状況および構造などについて分析し、モジュール化の可能性について論じる。

ロボットを活用したコミュニケーション支援の実践研究 松浦 祐介 (岐阜県立可茂特別支援学校)

分身ロボット OriHime は、遠隔地にいる相手とコミュニケーションをとることができるロボットである。「教室に入れないけれど、活動に参加したい」「直接話すのは苦手だが、人と話したい」という児童生徒の願いの実現を、このロボットの活用で目指した実践を紹介する。実機体験コーナー、外部からの遠隔操作実演も行う。 ※本研究はパナソニック教育財団の助成を受けて行っている。

聴覚障害のある幼児のための AR 教材の開発と活用に関する研究

藤井 裕士（岡山県立岡山聾学校）

イラストに音声付き手話動画の情報を紐付けした教材（以下：AR教材）を作成した。AR教材を活用することで聴覚に障害のある幼児が生活に関連する情報を主体的に見る時間に変化が生じるかどうかを比較した結果、主体的に見る時間は一時的に増加したが、それは持続しなかった。作成したAR教材には幼児の情報取得に対する主体性を引き出す効果が低い可能性はあるが、幼児以外に対する効果等も今後検討していきたい。

発達障害のある学生に対する修学・生活上の行動目標管理アプリの開発

佐々木 銀河（筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター）

本研究では、発達障害のある学生が自身の修学・生活上の行動目標を管理するWEBアプリケーションを開発し、ADHD・ASDのある大学院生1名へのトライアルを実施した。このアプリでは、学生が自身の行動目標を記録することで、目標の達成状況の自動的にグラフ化し、日々の記録から自身の目標達成頻度を増加させるためのアイデアを得ることができる。トライアルの結果、対象学生において修学・生活上の目標が達成された。

汎用コミュニケーション支援 Web システム VCAN を用いた言語・コミュニケーション支援 3 ～音声補助手段として Web システム VCAN を使用しはじめた事例の現状と展望～

秋元 瑞帆（白根大通病院 リハビリテーション科）

汎用コミュニケーションエイド VCAN は、Web システムに移行した。今回はその新システムの利便性を、器質性構音障害と全体発達の遅れがある小1男児の事例を通して示す。本事例は、特別支援学級内で音声言語の補助手段として VCAN を使用し始めたが、場所や時間を問わず手軽にカスタマイズすることが可能になったため、季節や学校行事、児の興味に合わせて随時内容変更を行なっている。このため発達支援ツールとしての有用性も感じている。

学習障がい児の為に楽しく学ぶ療育・教育ソフトの開発

門脇 和央（島根大学大学院 総合理工学研究科）

我々は、学習障がい児・者の認知特性に合わせた支援に関する研究を行っており、学習に対して強い拒否感を示す児童・生徒でも興味を持って訓練に取り組めるよう配慮し、ゲーム形式の訓練ソフトの開発を行っている。本稿では主に読み書きや九九に困難を示す児童・生徒を対象とした訓練ソフトや、注意切り替え、ワーキングメモリなどの訓練ソフトの紹介し、それらのソフトを無料で配布する。またソフトの開発・改良依頼も受け付ける。

ラジオ番組向け「自分の声」音声合成システムの開発 ～気管切開したラジオパーソナリティによる番組放送の実現～

渡辺 聡（株式会社 ヒューマンテクノシステム）

人工呼吸器(IPPV)装着に伴う気管切開によって音声を喪失した ALS 当事者が、「自分の声」による音声合成システムを利用してラジオ番組のパーソナリティを務めている。本発表では、この番組で利用している音声合成システムの構成・特長、番組の制作工程について、デモンストレーションを交えて紹介するとともに、これまでの放送を通じて行ったシステムの改善点や今後の展望について述べる。

ESD の視点で取り組む ICT 活用実践 ～対話型ロボットで関係性を育む～

岡田 拓也（愛知県立みあい特別支援学校）

今年度、対話型ロボット Pepper を導入した。社会性やコミュニケーションに課題のある子どもたちに「他者を意識して接すること・対話すること」を学ばせたいと考えたためである。まだ初期段階であるが、人でもタブレット端末でもない、人型ロボットの Pepper が、児童生徒と新たな関係性を生み出している。一方で、動作の不安定さや関わり方の柔軟性など課題もある。実践の一端を報告することで、活用の有効性や価値について意見を交わしたい。

汎用コミュニケーション支援 Web システム VCAN を用いた言語・コミュニケーション支援 2 ～自閉症 2 事例に対する言語指導場面での特性を活かした取り組み～

遠藤 理紗（白根大通病院 小児言語リハビリテーション外来）

特性の異なる特別支援学校在籍の自閉症男児 2 事例に言語指導場面を中心に VCAN を使用した。事例 1 は自発的なコミュニケーションや応答のきっかけとして VCAN を使い、要求の増加・語の想起の助けとなった。事例 2 では発語を補う目的で使い、要求を伝え・要求に応えることが可能となってきた。また、VCAN での文字提示は発声増加を促した。両事例とも、相手への興味・コミュニケーション意欲を育み、楽しく表出する機会を増やすことができた。

ICT 機器の活用による、応用行動分析に基づく支援の効率化の研究

～新しい記録・分析方法による授業改善～ 竹内 奏子（信州 ABA 研究会）

信州 ABA 研究会は、ABA の基本である、行動の記録、分析、支援方法の立案、実践までの流れを誰にでも取り組みやすくすることを目的として、本年度から「ICT を活用した ABA 実践のための新しい記録方法」に取り組んでいる。従来のシートへの記入や、ビデオ撮影だけでは困難であった「観察しながらのリアルタイム記録」が、スマートフォンを用いることで簡単に実行成果をあげつつある。取り組みと今後の展望について報告する。

12.3 (日)

9:00 - 16:00

受付開始時間 8:30

Practical Day

◇ 実用的知識や考えを身につける

ROOM	501【定員 84 名】	509【定員 88 名】	510【定員 120 名】	554A【定員 35 名】
8:30-	受付開始			
9:00-	コース 1			
9:30-12:00	テクノロジー利用を前提とした読み書き障害の評価と実践例 河野 俊寛 (金沢星稜大学人間科学部 教授/言語聴覚士)・ 平林 ルミ (東京大学先端科学技術研究センター 特任助教)	コース 4 障害者雇用の表と裏 ~これからの働き方を考える~ 近藤 武夫 (東京大学先端科学技術研究センター 准教授)・ 三宅 琢 (株式会社 Studio Gift Hands 代表取締役/産業医)	コース 3 学習が遅れた子どもの意欲を高める方法 井上 賞子 (松江市立意東小学校 教諭) 協力:「すべての子どもたちに読書の楽しみを」 公益財団法人 伊藤忠記念財団	コース 2 ダイコンから国算理社 福本 理恵 (東京大学先端科学技術研究センター 特任研究員)
12:00-13:00	Break	Break	Break	Break
13:00-	コース 8			
13:30-16:00	LD・ADHD など生きにくさを抱えた人たちの学び・働きと合理的配慮 近藤 武夫 (東京大学先端科学技術研究センター 准教授)・	コース 11 自閉症や知的障害のある子ども達はどうやってスマホやタブレットを使って生き抜いているのか? ~コミュニケーションの実例から学ぶ~ 青木 高光 (長野県稲荷山養護学校 教諭/ドロッブレット・プロジェクト)	コース 12 薬なんていらない! 心理学者 vs 精神科医 中邑 賢龍 (東京大学先端科学技術研究センター 教授)・ 小澤 いぶき (東京大学先端科学技術研究センター 特任研究員)	コース 9 学校を離れた学び ~ロケットの子ども達の声を中心に~ 福本 理恵 (東京大学先端科学技術研究センター 特任研究員)・ロケットスカラー

553	書籍販売 スペース 96
-----	--------------

101	自習室
-----	-----

102	事務局
-----	-----

103	託児・休養スペース
-----	-----------

554B【定員 35 名】	555A【定員 35 名】	555B【定員 35 名】	104【定員 120 名】	現地【定員 10 名】
受付開始				
コース 6 テクノロジー vs 人間 ～教育や福祉に本当に必要なものは？～ 渡邊 崇史（日本福祉大学 教授）・奥山 俊博（東京大学先端科学技術研究センター 研究員） 協力：「あるテクが活きる注目の支援機器 2017」テクノツール株式会社	コース 5 学校では教えられなかったこと ～将来に悩む若者の生き方とは？～ 岡 耕平（滋慶医療科学大学院大学 准教授）・当事者の方々 開発者様・研究者様向けの HoloLens セッションです。 HoloLens をアクセシビリティに活用できるいいアイデアを開発者様・研究者様、皆様にアイデアを出し合いませんか？ HoloLens 愛好家で HoloLens アプリ開発経験者のマイクロソフト社員も交えた技術者専門セッション。Mixed Reality で実現できるアクセシビリティを一緒に考えましょう。 ＊ランチセッションのため、お弁当が付いています。		コース 7 実践家 vs エンジニア ～こんなこと出来るか！？～ 巖淵 守（東京大学先端科学技術研究センター 准教授）・坂井 聡（香川大学教育学部 教授）	コース 15 大人のための視点を変える一日 ～アーティストと行く美術館～ 鈴木 康広（武蔵野美術大学空間演出デザイン学科 准教授）
Break	Break	ランチセミナー【定員 10 名】 『マイクロソフトセミナー』 開発者・研究者向け！ HoloLens アイデアソン 日本マイクロソフト株式会社 ※ランチ付	Break	
コース 13 子どもはその時何を感じていたか？ ～子どもを応援したい親・支援者のすべきこと～ 奥山 俊博（東京大学先端科学技術研究センター 研究員）・渡邊 崇史（日本福祉大学 教授）	コース 10 黙って見守ってわかること ～障害を超えたコミュニケーション～ 谷口 公彦・佐野 将大（香川県立高松養護学校 教諭）・岡 耕平（滋慶医療科学大学院大学 准教授）	コース 16【定員 20 名】 『マイクロソフトセミナー』 教育関係者向け！ 教育版 Minecraft 体験セミナー 日本マイクロソフト株式会社	コース 14 スマホやタブレット端末を生活支援に活かすアイデア特集 ～タブレット端末をどうやって教室や職場に取り入れるか～ 坂井 聡（香川大学教育学部 教授）・平林 ルミ（東京大学先端科学技術研究センター 特任助教）	

12.3 (日) Practical Day 概要・要旨

Practical Day は、1つのテーマに従って半日（もしくは一日）じっくり学んでいただけるセミナーです。参加のコースは、午前・午後、計16つのセッションの中から事前に選択して頂きます（定員制・事前登録制）。知識を得るだけになるのではなく、得た知識を活用できるようにするのがこのセミナーの目的です。

モーニングセッション 9:30 - 12:00 (コース1のみ 9:00 - 12:00)

アフタヌーンセッション 13:30 - 16:00 (コース8のみ 13:00 - 16:00)

各自、事前に選択頂いているセッションにご参加ください。また、参考資料につきましては、当日販売を行っているカンファレンステキスト（Proceedings）にも一部掲載されています。

モーニングセッション 9:30 - 12:00 (コース1のみ 9:00 -)

コース 1 Room : 501	テクノロジー利用を前提とした読み書き障害の評価と実践例 【SENSポイント対象セミナー】 河野 俊寛（金沢星稜大学人間科学部 教授／言語聴覚士） 平林 ルミ（東京大学先端科学技術研究センター 特任助教） 読み書きの遅れは脳科学的に診断するよりも、学習行動から評価した方が具体的な支援が見えてきます。ここではそういった評価の方法とテクノロジーを活用した代替アプローチを事例を交えながら紹介します。【定員 84 名】
コース 2 Room : 554A	ダイコンから国算理社 福本 理恵（東京大学先端科学技術研究センター 特任研究員） ダイコンの漢字を覚えれば国語、均等に分ける方法を考えれば算数、花にくる蝶を調べれば理科、産地を調べれば社会。調理や掃除など日常の活動をベースに楽しく学びを展開する方法を実例を交えながら紹介します。【定員 35 名】
コース 3 Room : 510	学習が遅れた子どもの意欲を高める方法 井上 賞子（松江市立意東小学校 教諭） 学習に意欲を失った子どもを再び学習に導くのは大変です。子どもの理解できるように教材を変え、時にはテクノロジーを用いて、少しずつ出来る経験を増やしていくことが必要です。子どもに努力を強いるだけでなく教師が教え方を変えることの大切さをいくつかの事例を通して学んでいただけたと思います。【定員 120 名】 協力：「すべての子どもたちに読書の楽しみを」 公益財団法人伊藤忠記念財団 http://www.itc-zaidan.or.jp/ マルチメディア DAISY は、数ある電子図書規格の中でも、最も読みに障害のある方への配慮がなされていると言われています。しかし、まだ認知度が低く、必要とする子どもたちの手元に十分に届いてはおりません。本セミナーでは、参加者の皆様にわいわい文庫を実際にご覧頂き、基本的な操作を学ぶ場とします。読めずに困っている子どもたちが、読み通した喜びや自信を身につける可能性がある本文庫を、ぜひご体験ください。
コース 4 Room : 509	障害者雇用の表と裏 ～これからの働き方を考える～ 近藤 武夫（東京大学先端科学技術研究センター 准教授） 三宅 琢（株式会社 Studio Gift Hands 代表取締役／産業医） 社会はフルタイムで働くことを求めがちです。しかし、フルタイムで働くことが辛い時期は誰もあります。障害のある人にとっては特に大変なことのようにも思えます。法定雇用率制度に支えられた障害者雇用の課題を整理し、これからの雇用はどうあるべきかを産業医と超短時間雇用を提唱する研究者が議論します。【定員 120 名】
コース 5 Room : 555	学校では教えられなかったこと ～将来に悩む若者の生き方とは？～ 岡 耕平（滋慶医療科学大学院大学 准教授）・当事者の方々 学校を卒業して働くことに悩みを抱える人たちの声を聞きながら、学校教育は彼らに何を提供すべきだったのか、そして今何をすべきかを参加者の皆さんと考えていく時間です。【定員 70 名】
コース 6 Room : 554B	テクノロジー vs 人間 ～教育や福祉に本当に必要なものは？～ 渡辺 崇史（日本福祉大学 教授）・奥山 俊博（東京大学先端科学技術研究センター 研究員） 介護保険や総合支援法の整備によりヘルパー制度を活用しながら生活する人が増え、支援技術の重要性が低下している気もします。一方、社会のバリアフリー化により人の手助けなしに生活できる場面も増加しています。テクノロジーと人をどのように使い分けて生活すべきか皆さんと一緒に整理してみましょう。【定員 35 名】 協力：「あるテクが活きる注目の支援機器 2017」 テクノツール株式会社 http://www.ttools.co.jp/ タブレット操作には「アームサポート“MOMO”」、PCのオンスクリーンキーボードには「ジャイロマウス“Zono”」、スマホにメモる視線ボード「ワイヤレス透明文字盤“みてタッチ”」
コース 7 Room : 104	実践家 vs エンジニア ～こんなこと出来るか！？～ 巖淵 守（東京大学先端科学技術研究センター 准教授） 坂井 聡（香川大学教育学部 教授） 身の回りにあるテクノロジー（アルテク）を用いた支援技術開発者と日々様々な障害のある人の支援を行なっている臨床家が議論する中で、今の技術でどこまでできるのか、また、今後はどこまで出来るようになるのか未来を想像してみましょう。【定員 120 名】

アフタヌーンセッション 13:30-16:00 (コース8のみ 13:00-)	
コース 8 Room: 501	LD・ADHD など生きにくさを抱えた人たちの学び・働きと合理的配慮 【定員 84 名】 近藤 武夫 (東京大学先端科学技術研究センター 准教授) 【SENS ポイント対象セミナー】 合理的配慮という言葉が学校や障害者雇用の現場に浸透してきました。しかし、その意味を正しく理解している人はまだまだ多くありません。学校や職場での配慮事例を通じて「合理的配慮」という考え方を理解してもらいます。
コース 9 Room: 554A	学校を離れた学び ～ロケットの子ども達の声を中心に～ 福本 理恵 (東京大学先端科学技術研究センター 特任研究員) ・ロケットスカラー 学校に行かないことは大変なことだと考える親がほとんどです。大切なことは登校・不登校ではなく、学びの場があるかどうかということです。学校を離れて生き生きと学ぶ子ども達の事例を紹介し、子どもにとって必要な学びの場とは何かを考えてもらいます。【定員 35 名】
コース 10 Room: 555A	黙って見守ってわかること ～障害を超えたコミュニケーション～ 谷口 公彦・佐野 将大 (香川県立高松養護学校 教諭) 岡 耕平 (滋慶医療科学大学院大学 准教授) コミュニケーションは語りかけることからスタートすると思っている人がほとんどです。そうすると相手が語らない場合は何もできません。語りかける前に黙って見守ることが必要なコミュニケーションもあります。障害のあるなしに関係なく大切なコミュニケーションを学んでください。【定員 35 名】
コース 11 Room: 509	自閉症や知的障害のある子ども達はどうやってスマホやタブレットを使って生き抜いているのか? ～コミュニケーションの実例から学ぶ～ 【定員 88 名】 青木 高光 (長野県稲荷山養護学校 教諭/ドロップレット・プロジェクト) 音声言語によるコミュニケーションの難しい子ども達にとってもスマホやタブレットは大きな役割を果たすようになってきました。しかし誰もが同じように使えるわけではありません。言語能力によってアプリを使い分けていく必要があります。自閉症や知的障害のある子ども達が今どのようにスマホを使って生活しているかを事例から紹介します。
コース 12 Room: 510	薬なんていらない! 心理学者 vs 精神科医 中邑 賢龍 (東京大学先端科学技術研究センター 教授) 小澤 いぶき (東京大学先端科学技術研究センター 特任研究員) 行動に問題があると病院に行き、服薬を勧められる子ども達があります。しかし、その処方うまくいかない様々な問題も生じます。果たして薬とどう付き合っていけばいいのか? セカンドオピニオンはどうやって求めたらいいのか? 精神科医と心理学者の対談を通じて学んでもらいます。【定員 120 名】
コース 13 Room: 554B	子どもはその時何を感じていたか? ～子どもを応援したい親・支援者のすべきこと～ 奥山 俊博 (東京大学先端科学技術研究センター 研究員) ・渡辺 崇史 (日本福祉大学 教授) 子どもの自立を望み支えるのは親ですが、自立を阻むのも親であることがあります。障害当事者にも登壇してもらい、子どもの自立について理解を深めてもらいます。【定員 35 名】
コース 14 Room: 104	スマホやタブレット端末を生活支援に活かすアイデア特集 ～タブレット端末をどうやって教室や職場に取り入れるか～ 坂井 聡 (香川大学教育学部 教授) ・平林 ルミ (東京大学先端科学技術研究センター 特任助教) 臨床経験豊富な 2 人の講師がスマホやタブレットの生活や学習支援アプリを事例とともに紹介します。同時に、どのように社会の中で機器を受け入れてもらうかについてそのヒントも得てもらえればと思います。【定員 120 名】
コース 16 Room: 555B	『マイクロソフトセミナー』 教育関係者向け! 教育版 Minecraft 体験セミナー 日本マイクロソフト株式会社 子どもに大人気のマイクラフト! 遊びだけじゃないんです! 教育版マイクラフト「Minecraft: Education Edition」をどのように授業で活用できるかを実践されている先生から学べます。実践紹介だけでなく、教育版 Minecraft を実際に触りながら、マイクラからの学びを体験できます。「Minecraft: Education Edition」のプロがマイクラの奥深さを紹介します。【定員 20 名】

【FIKA プログラム】一日体験セッション 10:00-15:00	
コース 15 現地にて	大人のための視点を変える一日 ～アーティストと行く美術館～ 鈴木 康広 (武蔵野美術大学空間演出デザイン学科 准教授) 日常にあるものを見立てて作品を作り上げていく鈴木さんと京都の美術館を訪れ、見方の違いを楽しむ 1 日です。 【定員 10 名/現地集合・現地解散/実費 別途自己負担】

会場案内図

